



再治

孟蘭盆獻供儀

全



古語曰人信魚在大可在大車一云
宜哉佛法大海信以能入
不在頓

明治拾八

孟春三月吉日

日下部玄道謹
寫

孟蘭盆獻供儀小引



佛之道以善為用。善固夥矣。而孝其
端也。為道而不在其用。能為大道乎。
為用而不先其端。能為溥用乎。是故
佛為出世之道也。無所不善為出世
之善也。未始忘情於其親。方其成道

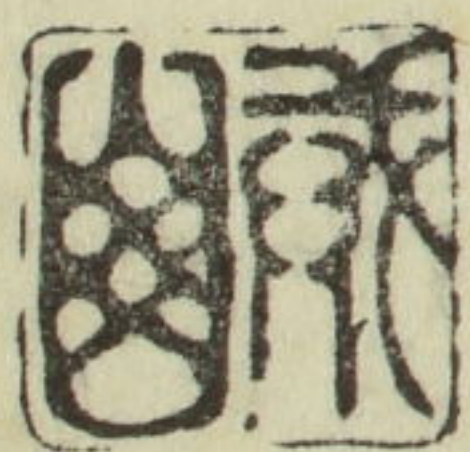
之初諭父王于聖道。而國人亦皆化之。又升忉利天為母說法者。二月及父王之崩也。則躬率諸釋負其棺以葬。至于訓諸弟子。則謂父母與補處菩薩等。許弟子減衣鉢之資。養其父母。又目連欲採其母。則為說孟蘭盆法。且囑諸弟子。歲必行之。藏中勸勉不一。而足是以古之稱高僧賢衲者。未有不孝其親者也。今世有不肖之徒。欲不先其端。自謂我出家專道。豈非背負如來遺意乎。予不幸蚤喪父。而從師於外。二十餘年矣。進不能明。

道退不能侍母。不孝之罪無所逃也。然予惟口體之奉未足為孝而大孝在資神也。原夫孟蘭盆一經乃報恩之大訓資神之妙方也。故每歲當調御歡喜之日。啟目連祭祀之儀。用致二親之福祐。微報罔極之恩德。竊念不得視人之親猶已之親。非大士之志。嘗見士女之修此法者。率多不遵聖教。欲贊其父母冥福。不亦難乎。予甚嘆之。昔芝園祖師製蘭盆獻供儀以示祭法。其書雖存而童蒙輩未易通焉。故數年前嘗為翻作和語。作為

緣起一本依行者不為不多矣。今茲
孟秋有感於東乃重為刪補易以今
名益式祖師之供儀也。緇衣之士其
六何事於斯庶士女之覽之者知道
以善為用善以孝為端而年々馨孟
蘭揀度之誠令存亾父母同躋於至
善之域此予一片報親之志故未暇
較文字於和漢之間也

元祿二年歲次己巳季冬望後三日
湖東安養比丘堅戒山和南書于

編蒲軒



孟蘭盆會供儀 并縁

孟蘭盆と云へ。これ佛弟子の孝と申。
 恩は報むる法なり。孟蘭盆二字は天
 竺乃語。唐言よ。倒懸といふ。倒懸と
 云。龍湯乃くく。と云の一字はのり
 とり唐言。その聲をばとくふ。蓋と云
 けり。いこのゆり。種は此淨潔の燒淨はも
 けり。種く乃淨潔の養食と盛。十方乃

唐の代宗皇帝。常に孟蘭盆會
氏。禁中。小もよもしく。先祖の冥福
を乞ふ。宋乃真宗。仁宗の諸帝。よむ
までも。法よとりて。妙の法。いふと
なり。奉。明。宣。帝。よめく。孟
蘭盆供をとおし。又。解。諸
寺。小。に。わ。く。孟蘭盆。海。と。母。の
恩を報じ。又。聖。武。宣。帝。孟蘭盆
供。氏。宮。中。小。置。又。司。膳。寺。に。詔。して。此

供をとれ。一。式。と。し。て。式。と。し。て。新。小
これより。これ。千。秋。の。日。也。真。の。今。も
む。海。に。通。俗。男。女。皆。に。供。へ。家。に
小。お。れ。い。ふ。い。ふ。と。な。り。お。し。時
末。代。よ。を。い。ひ。人。淺。識。な。れ。ば。佛。教。小
隨。順。して。孟。供。と。い。ひ。心。の。中。終
なり。また。い。ふ。父。母。眷。属。の。靈。よ。飯
麩。菜。果。の。類。の。と。う。か。す。の。ら。れ。ば
孟。蘭。盆。供。と。思。ふ。り。是。も。い。か。が。り。孟

佛至迦維曇父擔棺



五箇盆供儀

十方自恣心傷と稱して。倍々し其神カ
 と。そのまは。いふやうに父母の靈。さらす此三塗
 の苦報。成す。あつて。法佛の淨刹。
 せ。せ。えん。ほろく。父母の恩と。とらおのり
 小。須弥よりと高く。巨海よりと深し。
 身は。く。さ。に。骨。成。乾。よ。す。し。の。よ。も。い。ふ。と。
 報。は。あ。い。ふ。と。思。ひ。つ。て。さ。に。い。
 と。佛の慈恩。此ふく。法力の妙なりこ
 や。し。て。う。け。た。く。有。難。く。信。道。本。師

五箇盆供儀

佛乃父淨飯王。王子生時。深。甚。乃。也。ら
 と。海。れ。は。は。と。昔。く。い。う。く。と。れ。今。下。れ。お。り。は。し
 と。慮。ら。ず。を。と。う。し。ら。く。い。諸。子。子。ま。は。え。ご
 と。し。と。氏。時。は。佛。神。通。と。し。つ。く。と。ら。る。ふ
 是。氏。より。難。陀。阿。難。羅。雲。と。告。す。乃。と
 虛。空。に。お。り。て。父。王。に。れ。り。に。い。ふ。大。光。明
 と。と。れ。つ。く。父。王。乃。身。は。て。し。又。金。色。乃
 以。手。氏。平。して。その。額。は。は。を。為。し。し。海。と
 説。法。し。り。父。王。人。は。歡。喜。し。佛。の。以。手。氏

心。上。に。引。び。佛。と。禮。し。は。わ。く。氣。を。ま。え
 命。つ。ひ。く。淨。居。天。下。に。生。次。佛。當。來。世。の。人
 と。れ。兜。暴。う。て。父。母。養。育。の。恩。と。報。せ
 ら。ん。と。い。は。お。り。は。海。も。く。と。い。う。く。と。れ。棺。と
 擔。ひ。お。り。その。時。三。千。世。界。六。種。の。震。動。を
 諸。天。龍。神。皆。來。り。佛。に。代。り。棺。と。擔。ひ
 と。と。佛。四。天。王。お。り。て。と。れ。棺。氏。お。り。し
 也。と。い。う。く。香。爐。と。と。ら。く。茶。を。ま。え。り。ゆ。き
 所。と。云。い。淨。飯。王。泥。洹。經。よ。出。す。り

釋迦如來。善權のりくんとて。此の
 一ののるや。もとむれば。頭目。龍腦を
 論く。父母の孝養有り。天地神祇の感
 動。此のに。すまふ。すまふ。成佛し。
 是のが。我ら。かき。たよ。この。周り
 也。より。して。大小。乃。教。法。と。こ。ま。
 以。て。小。く。孝。順。の。乃。氏。教。の。所。
 梵。網。經。の。父。母。師。僧。三。寶。の。孝。順。を
 也。孝。順。を。至。道。乃。法。り。孝。と。名。づ。を

五藏分書卷之二

五

て戒う。又ハ却止と名づくこと。此涅槃經
 といふ。壽々々々。父母をこれらに對し
 大吾惱とす。うく。返るに孝と報じて。此
 徳者す。うく。此雖報經といふ。左の肩
 父を持し。右の肩。母氏抱し。十年と
 終應し。背上一にわく。便利とす。此
 う。終父母乃慈氏報む。りす。あるに
 中。此難實經。六父母のり。小おわく。すに
 乃供養とす。りす。に。福とす。りす。りす。

う。す。これ不順とす。りす。に。罪氏。終る。こ
 する。りす。なり。とす。此。又。此。の。孝。養。心
 たり。今。成佛。を。ん。と。ん。ん。え。り。と。し。ん。ん
 勝子。維。ハ。我。と。し。ん。ん。う。西。上。正。真。乃
 道。氏。成。り。び。り。の。ハ。皆。孝。徳。と。す。り
 う。此。地。獄。經。ハ。人。れ。弟子。う。て。師。信
 乃。過。と。す。く。の。ハ。き。ん。ん。師。信。り。り。と
 も。命。終。て。う。か。ら。ず。地。獄。い。り。其。后
 根。と。す。り。り。好。食。美。果。等。と。得。く。

父母師傳ふあつて。まがらう。合あは。
 敵た。れ。バ。祇あま。鬼ま。の中なか。小こ。お。ら。ら。極た。難が。れ。く。人ひと。
 かりて。い。を。類し。窮くわう。かり。と。と。此こ。中ちゆう。陰いん。淫いん。よ。ら。
 見み。生せい。終しゆう。く。三さん。歳さい。よ。い。ら。ま。ま。く。母はは。此こ。乳ちち。と。飲の。
 一い。百ひやく。八はち。十じゆう。斛こく。なり。と。と。此こ。増ぞう。一い。阿あ。含ごん。經ぎやう。
 之これ。父ふ。母ぼ。の。孝きやう。順じゆん。一い。供くわん。養ぎやう。す。り。切き。德とく。果くわい。報ほう。と。
 一い。生じゆう。補ふ。處ちよ。の。善ぜん。薩さつ。乃の。切き。德とく。と。一い。等とう。なり。と。
 ら。此こ。又また。佛ぶつ。も。ら。く。此こ。比ひ。丘きゆう。よ。告つが。を。後ご。ら。く。
 若し。家か。や。あ。り。く。返へん。渡た。と。と。ら。バ。此こ。人ひと。も。ま。い。

小恩せうおん。よ。尚なほ。と。す。れ。ど。い。ふ。い。え。ん。や。
 大恩たいおん。と。や。き。こ。え。此こ。百ひやく。千せん。由ゆう。旬じゆん。が。り。と。ら。が。は。家か。の。ま。ら。く。け。く。
 小こ。と。れ。ら。ど。我われ。常じやう。小せう。歎たん。養ぎやう。と。あ。家か。生せい。
 あり。て。返へん。渡た。と。り。と。ら。は。エ。ら。ら。る。もの。大たい。
 恩おん。と。尚なほ。と。い。ふ。い。え。ん。や。小恩せうおん。と。
 や。か。き。我われ。と。ら。ら。の。け。く。と。我われ。と。か。ま。と。道だう。の。け。く。
 ぶ。き。こ。え。佛ぶつ。伽が。梨り。と。被ま。と。わ。か。た。在ざい。と。何なに。
 こと。此こ。人ひと。犯はん。と。何なに。是こ。故こ。と。比ひ。丘きゆう。後ご。と。り。

返後よりととわくアアとて心地觀
 經よりあやふしありて。不孝は深き母と
 心く。暫時も恨心はたこもえ。慈念乃
 辭わたりて。下ぬき。子よりわら。言ふ志
 をぐ。吾輩よ。若男女ありて。母の教
 小より。顔色を。氣順して。相違とらむ。と
 一切の災難。とくを。消除。諸人擁護
 心く。常小安樂なり。とて。觀無量壽
 經より。父母よ。孝養する。ハ。三世の諸佛。淨

業は正固なり。とて。父母恩重經より。父
 母乃慈德。しりかく。げらむ。を。とて
 人ありて。たれ。肩よ。父はよ。なほ。右乃
 肩よ。母はよ。あり。須弥山と。たぐり。と
 百千匝と。ぬき。と。父母の深恩と。報む
 り。と。あり。と。母は。執する。と。成。え。と
 たり。と。父母のき。め。に。此經と。書。寫。し。
 父母の了。め。に。此經と。讀。誦。し。父母のき
 え。罪。愆。と。懺。悔。し。父母の了。め。に。三寶

子伝奉り。父母れ。また。斎戒と受持。
父母乃をわふ。布施修福と。あま。
かくれ。と。い。かり。と。記。孝順乃。み。と。心。
此行。成。が。ら。い。これ。地獄。の人。かり。せ。
と。記。あ。か。かく。れ。と。記。の。文。ひ。ろ。く。の。法。を。
殊。林。等。れ。書。ふ。又。と。い。り。寒。く。エ。と。し。は。
世。の。人。を。と。と。く。釋。氏。の。父。は。無。母。を。
無。と。い。ふ。見。聞。の。ひ。あ。ら。う。に。あ。ら。ず。
や。と。い。ふ。た。孝。よ。二。の。あり。一。よ。の。世。間。乃。存。
二。よ。の。出。世。間。の。孝。かり。その。情。よ。と。い。ふ。と。
れ。形。と。を。と。と。く。の。世。間。れ。孝。かり。その。性。
ふ。と。い。ふ。の。神。と。た。と。く。の。出。世。間。れ。
孝。かり。これ。ゆ。え。世。間。の。孝。は。は。く。の。一。世。
乃。禮。法。を。返。り。時。よ。と。い。ふ。と。衣。食。の。
資。具。は。供。し。出。世。間。れ。孝。と。い。ふ。と。三。世。
れ。遠。見。と。い。ら。れ。機。よ。と。い。ふ。と。顯。密。の。教。
法。と。い。ふ。と。達。地。大。師。の。い。ろ。く。と。れ。親。
と。と。い。ふ。と。斎。戒。念。佛。と。い。ふ。と。は。な。ぐ。

六趣をくらしき達胎よ質瓜托一とて
 流陀と見えそを返つり。不退轉とほそとひり
 出。世間の人孝と名づく。返とひりひり
 いつりし。人れ子乃。幼勞れ恩よ報まかりて
 小にわく。大かりと返世の人とれ子乃。我
 ん。孝かしてしんんん。いぬぐとてとて
 てれ心はわく。その身とて海をく。その親
 小。孝妻女とほくまこれ。まればなら。むとら
 と。妙し。父母世よいまさい。いどめく。齊戒

念佛とて父母世はさる。常小はや
 めく。作善返福とて。又新むれ七月十
 五日よ。盂蘭盆會とほす。佛におん
 十方の自恣信よ信をん。とに。父母乃
 願。恩は報答し。すく。法界の家生に
 回向とて。凡善根と修すれども。回向の
 心。あまぬ。う。所を。これ功德。う。ざりある。と
 必候とて。と。われ善い。ひりく。震とて
 ほどこす。て。記。ふり。悔。く。佛と。よ。ら。げ。の。ま

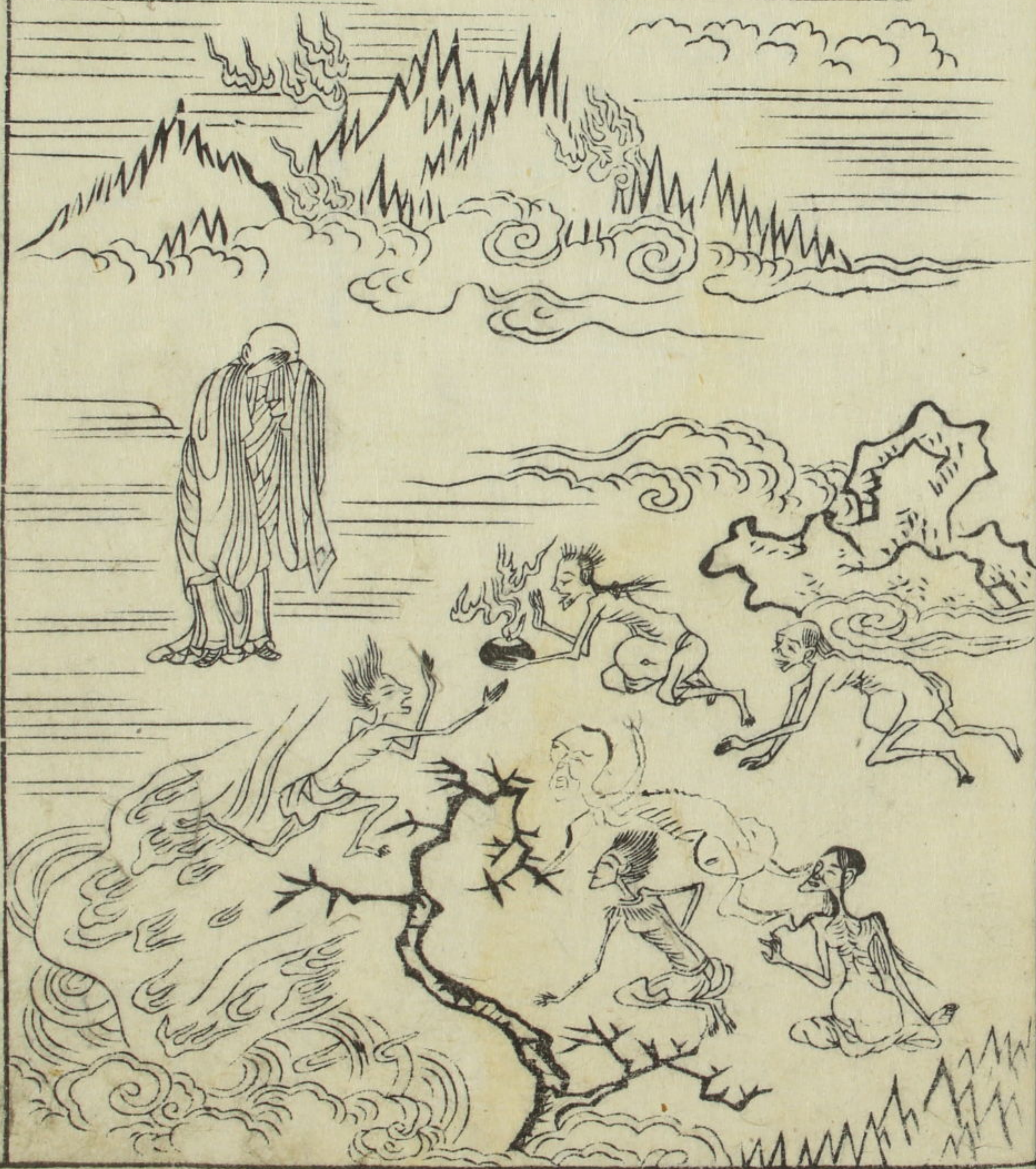
といふ方りもこれ皆ひそく父母なりや
 と記法よとや。云々のあはれど。記法と其
 親を愛して人よ母よげと法と道と
 と云ふまじまが今生の父母。孝順。次
 て。まゝ乃父母。行なはるべし。これ
 是國祖師也。如素よたふし。まが二
 親と度し。目連ふからむて。返づ七母と
 そくつと。い。ら。い。法。よ。ら。を。い。ま。し。た
 魚乃。高僧名端と。彌と。人。い。ま。し。た
 其親よ。孝が。ら。ら。い。あ。と。道興律師
 を。母。法。を。て。余。法。を。法。賊。の中。ふ
 入。く。母。法。す。れ。道。純。法師。常。小。母。を
 二何。く。聴。学。し。道。明。禪。師。を。蒲。後。法
 化。り。て。母。と。ア。ガ。り。か。く。れ。と。此。の。賢
 孝。乃。侍。は。ぶ。た。あ。を。と。と。れ。が。故
 郷。を。と。れ。ま。し。く。凡。そ。餘。年。う。ら。ひ
 く。常。小。親。の。さ。ら。に。侍。して。孝。養
 返。つ。次。と。い。は。る。と。法。を。ら。が。た。

深連然として。母れまはるのちが
 をくして。こゝに及つり。心人親むすりや
 いら小。辟をいふれ。これいふと
 り解せし。びく。芝園祖師。蘭盆献儀
 といつり。書成ありて。天下小流布し。盆
 供乃法を志す。好ふ。志れ。士女乃
 いろさ。見らに。をく。びり。れ。おほし。こ。か。ゆ。し。
 三五。年。か。さ。記。如。来。れ。金。言。祖。師。れ。供。儀
 小。よ。め。く。も。あ。り。れ。こ。い。さ。文。氏。此。國。の。耳
 かれ。ら。解。か。つ。く。盆。供。の。縁。起。一。巻
 成。あ。り。て。い。さ。り。父。母。乃。慈。し。む。く。樂。在
 乃。士。女。乃。お。ほ。し。の。お。ほ。し。今。年
 盆。供。を。あ。く。威。ま。り。こ。ら。あ。り。し。盆。乃
 盆。供。補。し。あ。く。あ。く。西。園。盆。獻。供
 儀。こ。名。い。く。ね。ご。ら。貴。賤。老。若。こ
 け。く。佛。教。に。隨。順。し。く。盆。供。を。い。ふ。か。こ
 自。他。の。父。母。を。こ。し。こ。ら。あ。く。要。趣。と。し
 け。れ。お。ほ。く。淨。刹。に。い。さ。り。せ。し。也

五書 五書 六書

五書

目連餉母山化火炭



目連餉母山化火炭

五



目連餉母山化火炭

五

目録設筵供母即生元



盂蘭盆獻供儀

凡盂蘭盆供儀と候とひては、
 道場と莊嚴し、白味五果
 香油、提燭、等々供養物を
 用意とす。又、道場といふ
 焼香、禮拜し、をす。長跪合掌
 あり、第一、奉師釋迦如来と
 候。

盂蘭盆供儀

六

賢善菩薩僧家。たゞねがづく道場。降臨して。まが供養んばうを授へ

一心よ護ごし。返つる。十方自恣。得道聖賢。縁覚僧家。をまねがづく。及場。除

除。まが供養をうけ授へ。一心よ護ごし。たゞ返つる。十方自恣。得道聖賢。聲聞僧家。をまねがづく。道場。除

除。まが供養をうけ授へ。一心よ請ご。たゞ返つる。報親入。及。起教。利生。

目連尊者。とまねがづく。道場。除。て。まが供養をうけ授へ。

請ご。に。り。か。バ。次。三。寶。と。稱。歎。一。咒。願。ま。が。

釋迦。真。教。法。三。乘。の。賢。聖。と。目。連。尊。者。氏。統。首。を。ま。ね。が。づ。く。道。場。除。

を。ま。ね。が。づ。く。親。母。氏。報。ご。ま。ね。が。づ。く。慈。悲。を。う。ご。か。く。讚。嘆。と。ゆ。く。授。へ。

ま。ね。が。づ。く。不。生。此。父。母。の。同。極。深。息。

以報答してかゝる也よ。飯百味。五果。香油。
挺燭をととれへく。三寶を。十方に自恣入滂。
衆僧を。供養して。中より。好む。現
互乃父母に。奉養して。壽命百年。一切吾悩の
うきへなり。乃至七世の父母。敬鬼れく。三
を。これ。諸佛の國。生じ。福樂き。い
つ。か。く。之。法。家。よ。あ。ま。ぬ。ま。無量。乃。家
也。この。重。修。と。う。け。く。こ。し。小。利。樂。よ。う
向。か。り。心。三。心。ん

先願一と。なりて。次。奉。師。釋。尊。乃
名。号。に。こ。な。つ。よ。あ。ま。ぬ。ま。七。返。あ。ま。ぬ。ま
二十。一。返。時。よ。ま。了。び。く。至。心。一。修。念。を
向。

南無大孝釋迦牟尼佛

名。号。に。こ。な。つ。て。次。奉。師。釋。尊。乃
こ。ら。れ。三。寶。と。禮。を。ぐ。す。か。り。又
六。位。あり。第一。奉。師。釈。迦。牟尼。佛。未
二。よ。ハ。蓋。蒙。を。盡。治。蔵。才。三。ハ。善。薩。僧。

一、此を過倍の目ふあつてい、とりしく
父母よりりて。三歸。五戒。八戒。等れ法と
うけ。下乃文。成るなり。懺悔と修とべ
記かり。それよりうづ深くして。常小持
戒。修善の人と。いふ可也。

至心よ懺悔と。まはす。所生の父母多世乃
親縁。ぶく真常小と心さ。ごうなり。了。
生死よかぐる。無明よえつる。倒想。欲
境よえつる。攀縁と。六情とほひひし

はうして。ふとろふ十惡とはくろ。貪。瞋。
邊見。殺。盜。邪。婬。兩舌。惡口。ひく。欺。
綺。語。妄言。ふく。誑。惑。と。志。の。ひ。法。
財とや。通。酒とを。所。音。
成。心。信。尼と。受。辱。佛。法。と。輕。慢。
家。と。れ。血。肉。と。食。飲。無。量。の。會。無。氏。
傷。強。と。新。切。れ。強。と。む。い。ど。を。一。時。の。
養。成。之。り。ら。あ。ん。ん。提。よ。厄。難。よ。あ。ん。
あり。の。ら。小。沈。論。を。う。け。ん。る。下。け。か。く。

密呪ありんハ佛号。その機よこすハ
てぼとこつ

佛説孟蘭盆經

西晋三藏法師竺法護奉 詔譯

聞しかくれごと。一時佛舍衛國祇樹
給孤獨園よ。向しす。大目犍連。そつめ
六通とえ。父母度して。乳哺の乳
報とん。飲とよかつら。道眼とりん
世り氏。觀視とどの亡母ばえん。餓鬼の
中ふ生じて。飲食とえ。皮骨連とら
目連。悲哀。すれつら。鉢とりん。飯と

五上刺盆鉢共義

三三

あり。往て。それ母よ。餽と。母。淨の飯。試え
 して。つかつら。たの手。はり。く。所と。く。右乃
 ち。食と。ごり。食。いま。は。ふ。い。ら。ら。ふ。化
 火。炭と。がり。つ。の。ふ。食。より。して。は。え。ど。目。連
 其。在。い。ら。も。の。悲。號。は。は。して。せ。く。ら。
 佛。よ。悔。う。して。具。よ。の。ぶ。ら。し。の。く。れ。ご。ら。
 け。け。の。れ。る。後。く。は。か。母。飛。根。う。く。む。と
 悔。り。世。一。人。れ。の。あ。く。く。い。ん。ご。ら。す。ら。て。や
 あ。う。ど。世。孝。順。の。終。天。地。と。ま。ご。う。す。と。し。よ

天神。地祇。邪魔。外道。の。る。士。回。天。王
 神。も。悔。う。ご。ら。ん。ご。ら。す。ら。て。あ。る。ア。後。た。す
 愈。く。十。方。家。僧。の。威。神。の。か。は。も。の。く。
 つかつら。解。脱。と。う。ア。これ。今。後。た。に。救。済
 乃。法。を。ご。ら。ん。く。一。切。の。罪。と。く。これ。憂
 吾。氏。と。れ。き。う。む。づ。佛。目。連。よ。つ。も。う。後。く。
 十。方。れ。衆。僧。七。月。十。五。日。ハ。僧。自。恣。の。時。か
 つ。は。く。小。七。世。の。父。母。に。ん。ん。機。を。れ。父。母。尼
 衆。の。中。れ。も。の。く。き。め。た。飯。百。味。五。果。汲。灌

七世の父母氏願し。禪定喜と修行し。然
 ちくわら食とくもよ。初め小食はうく
 時。佛氣塔寺れ中乃。佛氣は安
 家僧呪願し。とらりて。すかつら。くう食
 はうく。時よ目連比丘に。大善。産
 之れにほいよ。歡喜し。目連。悲啼。匠の
 釋然うて。除滅也。この目連乃母
 すかつら。この目連にわく。一切。餓鬼の
 之。氏。脱をりし。氏。目連。佛小

海うして。まうりく。衆子が所生の母ハ。三
 寶功德れらう。家僧威神乃らう。氏
 うみりし。氏。うらがゆ。か。未
 乃。一切の佛才子もま。蓋園を
 て。現互れ父母乃。七世の父母氏。救
 す。現。と。ま。う。く。と。見。や。い。あ。や。佛。此。の
 皮。り。く。ゆ。は。い。よ。う。く。と。ら。り。我。ま。さ
 小。ご。う。と。お。や。は。い。ま。は。る。ご。う。と。男。子。
 中。ハ。比。丘。比。丘。石。國。王。を。子。大。臣。宰相。三。公

百官。其民庶人の。慈孝と云ふものも。
 三才の所生れ。現在の父母。過去七代の
 父母れと云ふ。七月十五日。佛歡喜日。僧自
 恣乃日。おわく。百味の飲食とりつく。
 盂蘭盆。此中ふと記。十方に。自恣僧よ
 祈ぐ。現生の父母。成して。壽命百歳
 ふして。やむひなく。一切苦惱のうらみと
 かく。乃至七世の父母。穢鬼の害。いとそ
 なる。人天れ中。お生じ。復樂。さしめられ
 かり。おし。ぬふ。この佛弟子。孝
 順。成候。まうものい。返さん念。これ申ふ。は
 ね。父母乃至七世。此父母と憶。年々
 乃七月十五日。常にお孝。慈候もの。不
 生れ。父母。おのい。きめ。盂蘭盆。此
 なり。佛におひ。僧よ。祈ぐ。て。父母
 母れ。長養。慈愛。れ。恩と報。まう。と
 一切。乃佛。弟子。返さん。この法。を。持て
 時。目連。比丘。四輩。此弟子。歡喜

ふく奉^ぶ行^{ぎやう}し記

漢^{かん}經^{きやう}念^{ねん}佛^{ぶつ}等^{とう}とつ^つば次^{つぎ}よ。孟^{もう}榮^{じやう}孟^{もう}
侶^り善^{ぜん}乃^の功^{こう}德^{とく}成^{じやう}もゆ^ゆく。父^ふ母^ぼに^によ
び一切^{いっけつ}家^か生^{じやう}ん。回^{かい}向^{じやう}。ごもた淨^{じやう}土^どふ
せ^せらん。ね^ねご^ごゆ^ゆら

ね^ねぐ^ぐく^くを^を分^{ぶん}四^し供^く所^{じよ}生^{じやう}乃^の善^{ぜん}成^{じやう}もゆ^ゆく。
父^ふ母^ぼ劬^く勞^{らう}乃^の德^{とく}と^と報^{ほう}え^えん。取^とり^り者^{しや}
を^を。家^か樂^{らく}小^{せう}し^して。壽^{じゆ}き^きの^のい^いち^ちも^もわ^わか^から^らく。亡^{まう}せ
り^り者^{しや}を^を。若^{じやく}成^{じやう}を^をれ^れま^まして。安^{あん}奉^{ほう}れ^れよ^よ生^{じやう}い^いち^ち

回^{かい}息^{そく}三^{さん}有^{ゆう}も^もあ^あり^りく^く此^{こゝ}含^{かん}識^{しき}三^{さん}途^ど八^{はつ}難^{なん}く^く
ま^まと^と此^{こゝ}家^か生^{じやう}ご^ごも^もに^に候^{こう}意^いと^とく^くぬ^ぬけ^ける^る罪^{ざい}
障^{じやう}と^と減^{げん}し^し。と^とく^く々^々輪^{りん}回^{かい}成^{じやう}い^いて^て淨^{じやう}土^ど
小^{せう}生^{じやう}せ^せん

回^{かい}向^{じやう}に^にり^りが^がば^ば至^し心^{しん}よ。三^{さん}禮^{らい}し^しく。
ち^ちら^らぬ^ぬ

問辨附

有が問。茶の法より文よ。十方自恣好。僧衆といへり。いふが僧。律。前中後。三柱の安居。僧あり。志づる。前安居。乃僧よ。つわい。四月十六日。夏。減む。七月十五日の夜。分はる。夜。夜。此。一。夏。九旬。此。道。法。修。功。徳。と。は。自。恣。の。法。

ふくつをいせし。但大比丘乃淨土。未
 未變具戒人。此がすことばにあらず。今
 今。自恣と云ふは。九旬安住乃
 百。身と精練をいふ。人に
 ほく。おのれよ返らん。過を
 ず。このゆるよ。安住のをかりふに
 対して。自恣の過は。過心
 くれをれつら。自恣なり。聖僧ハ
 かりといふ。諸佛の正軌に
 此の自恣れ法を。何れ
 佛舍利弗よ對し。自恣乃
 法を。何れ。身に意の過
 や。いあや。舍利弗のい
 何ぞ。過あらん。佛す。かくの
 小い。むや。その餘乃者
 孟蘭盆會。十方自恣。得道
 僧と。やれ。後して。供養
 を。今世の凡僧なり。如

此の自恣れ法を。何れ
 佛舍利弗よ對し。自恣乃
 法を。何れ。身に意の過
 や。いあや。舍利弗のい
 何ぞ。過あらん。佛す。かくの
 小い。むや。その餘乃者
 孟蘭盆會。十方自恣。得道
 僧と。やれ。後して。供養
 を。今世の凡僧なり。如

又とつて。世の甘みは尽して。供養せば
 いふ。返つて見もの。及びるからん。曰。盡
 といふ。兩意あり。中。富人を。天下の奇
 珍をばらる。貧者を。一己の力量をばら
 る。それ自恣情と供して。救済を
 乞ふ。かゝるとも。滅をばらる。す。滅をばら
 る。自恣情の供養をばらる。赤き
 それ滅に應じて。さ。物多し。赤き
 を編む。善い。鬼神常

小亭なり。先誠あり。はうく。いこや
 三寶をばら

又問。自恣情と供養して。その力ふら
 して。七者とす。さ。七者よ。飯
 食と供をばらる。曰。自恣情と供
 供養より。七者よ。七者のま
 けり。の。を。あや
 つかり。丁寧。自恣情と供養し
 らう。七者よ。供より。何ぞ。ばらる

じ。愛食の真言等法もつく。ふいと加
 持し。父母乃至萬靈よ。供養とむし。じ
 ぬりり愛食の真言はすかり下し。安んじこころの無量
威徳自ら光明勝妙の陀羅尼。これなり
 又同。この益供と。地時より。候とて。や。曰
 凡僧す。非時よ。食と飲。いそや。自治の
 賢聖とや。うからず。日中前よ。たわく。供
 養法修と。律の中よ。給の明相とら。
 日中前と。時と名づ。日中よ。明相い
 まぶ。おがり。非時と。かづく。と。ごまら。と。
 ト。時中よ。たわく。種々の供養
 減まうく。べんり。と。

又。ころく。七月十五日と。佛歡喜日と。よ
 ち。い。う。け。り。義。が。や。曰。佛。り。世。よ。出。法
 ぬ。し。ハ。を。人。と。善。業。法。修。と。
 り。じ。ご。り。が。り。法。と。め。く。人。れ。悪。と。は
 くら。い。そ。て。い。う。れ。と。台。と。候。と。り。法。と。
 と。よ。り。ら。び。法。よ。七月十五日よ。い。も。あ。く
 乃。信。一。夏。九。旬。の。要。期。に。と。して。

戒定慧の学。をのく。好むことありあれ
 ば。佛の本意よくしむ。またに歡喜
 あり。これゆへ。この目おわく。益
 供と申ふれば。その福甚多し。何と
 び。せり。小慧達法師といふ人あり。
 俗より時より。縁を。心よ。煙氣
 あら。は。と。い。く。家人。これを。葬ら。す。十日
 を。つ。蘇り。て。い。く。わ。と。眞。實。の。い。ふ。
 小。金色の。聖人。を。こ。り。の。い。ふ。人。の。い。ふ。

これ觀世音菩薩なり。わを禮し
 と。つ。た。善。法。を。め。に。説。法。して。つ。ま。む。
 て。の。い。ふ。凡。七。人。の。い。ふ。福。と。い。ふ。
 七。日。沙。門。自。恣。の。目。お。わ。く。供。と。申。ふ。
 くれ。ば。その。福。と。い。ふ。は。り。も。供。と。申。ふ。
 と。申。して。い。ふ。か。ら。ず。三。寶。を。奉。
 上。と。い。ふ。福。と。申。ふ。は。り。も。供。と。申。ふ。

鬼子母のいそく。我今。如來よ歸し佛乃
 教勅をうく。あつて遠報せど。王舎大城
 におよび。もろくは土土一切人民の生を内
 こしりれ男女我れ擁護して。安樂お分
 らしむ。一切を治くは惡鬼滅滅しそく。
 こつら瓜がうやうといつ。次は施餓鬼ハ
 痛は餓鬼經等小。忍しそり。阿難も有
 れそり。靜處よ。痛は餓鬼。うそく。
 若くいそく。三日の夜。汝が命はそく。以餓

鬼乃中ふ。せすべし。阿難。又く。又よ
 ねをれ。餓鬼よ。うそく。何の方便
 をもつそく。これ皆うそく。餓
 鬼のいそく。もろく。南于那由他恒河所
 數れ餓鬼がうそく。百千は婆羅門地ホ
 小。摩伽陀土。用のうそく。れ。斛とり
 をれく。一斛乃飲食と。又と
 めに。三寶は供養と。汝が壽。またと
 え。我もする。餓鬼れく。うそく。天

上。よ。せ。り。と。成。え。し。何。難。の。言。と。交。
 じ。み。や。ふ。佛。の。所。よ。い。ら。あ。さ。れ。し。く。
 け。よ。に。ま。ら。し。佛。の。あ。ま。り。く。世。に。ま。り。
 し。れ。く。我。よ。迄。羅。石。あり。無。量。威。德。自。
 在。光。明。勝。妙。力。と。名。づ。く。也。此。陀。羅。尼。
 成。彌。多。り。と。あり。も。此。ハ。す。れ。ワ。り。く。俱。
 胝。那。由。他。百。千。恒。河。沙。般。の。伽。鬼。お。ん。
 婆。羅。門。僊。等。お。上。妙。れ。飲。食。と。充。足。
 口。心。乃。至。陀。羅。尼。と。説。く。せ。し。復。と。く。

最。表。莫。薩。憍。怛。佉。婆。路。積。帝。唵。三。跋。羅。
 三。跋。羅。吽。真。言。と。や。す。彌。持。と。れ。は。此。法。の。罪。ま。さ。し。
 阿。難。よ。告。く。せ。し。ま。り。若。比。丘。比。丘。尼。優。
 婆。塞。優。婆。塞。の。夷。お。ん。は。の。よ。此。真。言。
 に。よ。し。如。來。此。名。号。法。も。の。く。食。と。加。
 持。し。伽。鬼。よ。施。と。は。す。か。り。り。く。無。量。
 乃。福。德。と。具。足。し。百。千。俱。胝。の。如。來。成。
 供。養。し。り。功。徳。と。し。か。り。あ。り。く。壽。命。
 延。長。し。て。色。力。と。は。善。根。具。足。と。一。

不飲酒。不茹葷。不妄語。不淫。信。此。乃
 五戒の也。此。修。身。之。法。也。其。人。之。誠。
 其。親。を。あ。ら。は。す。ま。る。孝。な。る。す。や。こ
 乃。五。戒。の。も。此。一。切。の。修。と。所。の。此。其。
 身。法。を。て。其。親。を。と。り。て。不。孝。
 不。孝。を。や。す。ま。ら。ぬ。孝。を。行。す。る。人。
 戒。を。守。り。し。る。至。孝。と。名。づ。け。る。此。と
 戒。を。守。り。て。一。切。衆。生。に。皆。こ。ろ。が。生。じ。此。父。母。に
 此。家。生。に。孝。順。し。て。殺。盜。等。の。惡。事。

乃。か。さ。い。れ。戒。あり。要。氏。も。何。く。こ。終
 と。い。ふ。を。き。よ。く。孝。順。な。る。こ。自。然。と。
 梵。行。具。足。を。善。薩。乃。三。聚。淨。戒。と
 い。ふ。こ。の。孝。氏。い。く。所。も。や。ば。り。く
 佛。祖。に。押。金。と。と。り。た。此。に。終。り。こ。ら
 と。い。ひ。は。乃。に。此。法。を。ば。り。人。も。あ。れ。
 戒。の。諸。佛。の。通。戒。な。れ。ど。ふ。か。ら。も。是
 法。あ。つ。て。へ。れ。し。ふ。を。あ。せ。れ。い。ふ。い。え
 や。孝。氏。名。づ。け。り。戒。と。す。し。教。を。ば。り。孝。

戒し。けし。し。り。し。れ。せ。ら。び。や。し。を。ば。を
古。人。も。天。下。福。と。欲。く。孝。と。篤。う。は。ん。に。い
ふ。子。孝。と。あ。い。う。し。り。の。戒。と。修。す。る。ふ。を
し。る。戒。の。大。聖。人。此。正。勝。の。法。か。り。後。漢
音。を。と。り。し。く。これ。と。守。り。し。る。は。其。の。福。を
在。よ。ら。ん。が。て。し。こ。い。つ。ら。く。く。この。理。と。心
え。く。孝。と。戒。と。な。く。修。む。ら。ん。は。い。ふ。が。う
殊。勝。の。功。徳。と。し。る。此。も。よ。あ。ら。ず。ひ。を。ふ
ま。る。と。家。に。正。政。と。い。ふ。く。ら。や。び。を。家。に

文帝。ぞ。れ。た。何。尚。之。よ。い。ひ。く。い。く。ら。の
い。り。顔。延。之。は。不。炳。が。論。と。あ。ら。ず。感。ん。ふ
佛。法。と。祭。明。し。て。人。意。を。開。導。し。て。わ
り。十。二。の。瀆。を。し。り。し。れ。此。を。感。ん。ず。め
に。朕。と。れ。し。り。坐。あ。が。る。を。平。氏。し。る。人。も
尚。之。す。し。て。い。く。と。れ。百。家。に。傳。十。人
五。戒。を。き。め。り。し。り。十。人。淳。謹。か。り。千。室
乃。滎。百。人。十。善。と。修。む。ら。ん。百。人。和。睦
と。此。風。教。を。持。し。て。も。し。く。襄。區。よ。あ

後ゆうせの編。億平から見た。仁人百
翁から見た。一善と行とさ。一悪
と行。一善とさ。一刑と。さ。一
刑家よ。や。刑。國よ。陛下の坐
り。右平氏。さ。終なり。い
これと。一孝立。諸戒と。かり。諸
おこれと。天下安寧から。これ
い。孝。義。人。人。人。

跋

予。頃。此。書。編。世。は。一
あ。人。て。蘭。倍。良
乃。法。と。心。信。心。の。士
女。依。く。お。れ。か。る。お。ほ
志。た。文。れ。意。と。う。は。く。は
人。を。自。恣。供。力。を。紙。お。こ。れ
常。れ。精。神。中。の。と。し。

題孟蘭盆獻供儀後

釋門之所尊莫尊乎戒夫儒門之所
尊莫尊乎仁夫其所謂戒仁者未始
不以孝為本故佛世尊曰孝名為
戒孔子曰孝仁之本至矣大矣蔑
以加矣是以古之高僧名緇鉅儒

唐僧行錄卷之二
髦士無不從事于斯矣

本師和尚戒德峻偉風猷清遠爲四方阜素所瞻敬而其性誠孝寓身于東湖每憶北堂雖一飯不敢忘往往不遠千里挾策歸寧復常托飛翰諭之發心而歸聖道嗚呼

若師者可謂於本能盡其心矣弘律之暇嘗取祖之蘭盆獻供儀翻爲和語且撰緣起一篇弁之卷端益欲使童蒙者讀之咸知其法以脩其供脩其供以致其孝此則見師憫物之心至矣予舞勺之年不

幸罹父艱明年乃脫白而從釋迨
今將十載違母恆闕織蒲之舉侍
師又乏伏席之誠其不孝之罪惡
可免哉熟讀其所撰之篇孝心油
然溢于言表凡有心者孰不感激
乎古者云讀李令伯陳情表而不

本師安養和尚所編 孟蘭盆獻
供儀壹本授諸剎刹永傳于世
伏願人人起孝順心修蘭盆之
供各各報父母德登菩提之場
皆

元祿庚午夏安居日諸弟子謹識

洛陽書肆梅村彌白鏡梓

新調之

氣光山

大空慈眼



